

# ■日漢協トピックス



## 第42回定期総会・記者会見 開催

### ■定期総会

2024年5月21日(火)、第42回定期総会がKKRホテル東京(丹頂の間)で開催された。本年も昨年に続き、会場開催となった。

当日は、会員会社58社中、出席が30社、委任状提出が28社あり、予定されていた4件の議案すべてが承認された。

なお、外部からは報道機関9社のご参加をいただいた。



定期総会の様子

### ■記者会見

定期総会終了後、同じ会場で記者会見が行われた。まず、加藤照和会長からご挨拶があり、協会として今後重点的に取り組む活動について説明があった。



挨拶を述べる加藤会長

<会長挨拶全文>

[https://www.nikkankyo.org/action/jkma\\_topix/240527/topix01\\_greeting.pdf](https://www.nikkankyo.org/action/jkma_topix/240527/topix01_greeting.pdf)

加藤会長の挨拶文の骨子については、以下の通りである。

- ・本日、第42回定期総会が開催され、2023年度事業報告・収支決算および2024年度事業計画・収支予算案ならびに4つの議案が承認された。今後、第1期5カ年アクションプランの中間報告において明確になった課題の解決に向けて活動を進めていく。
- ・最重要課題として、「原料生薬の安定確保と漢方製剤等の安定供給」ならびに「原料生薬から最終製品までの品質確保」等について、課題解決を図っていく。
- ・原料生薬の安定確保については、中国医薬保健品進出口商会との交流を再開に向けて、11月初旬には訪中団を結成する予定等、スケジュール化を図り準備を進めている。また、生薬の国内生産については、農水省等行政の支援のもと、薬用作物産地支援協議会の主導で、産地化に取り組む。
- ・今般、保険医療上の必要性が高い品目の安定供給の確保につながるための薬価上の措置として、特例的に不採算品再算定が実施されたことに対し、感謝申し上げる。今後、協会として漢方製剤等の安定供給体制の強化に向け推進していく。
- ・品質不正事例については、協会として、コンプライアンスに関する研修会や実態調査を実施する等、コンプライアンス遵守体制の強化を徹底する。
- ・漢方の将来ビジョン研究会については、漢方製剤等に係る諸課題を検討する貴重な機会として、今後も有益な情報発信を行っていく。
- ・セルフメディケーション税制については、税制の恒久化等を要望するとともに、生薬製剤のフェムテックとしての利活用に向け啓発活動を行う。

加藤会長からの挨拶の後、報道関係者から質問を受けた。  
 記者からは、予定時間をオーバーする等、活発な質疑が挙がり、  
 会長をはじめ、町田常務理事、永野総務委員長および関連の委員が対応した。

以下、記者からの質問の内容を抜粋、列挙する。

- ・ 品質不正事例の該当会社と協会としての措置および今後の対策
- ・ コンプライアンス対策として実施される各社への実態調査の概要と活用
- ・ 5カ年アクションプランの進捗状況
- ・ 漢方製剤等の安定供給体制の状況
- ・ 中国や他国との交流の現状
- ・ 生薬の国内産地化に向けた活動の進捗と行政（農水省等）との関わり
- ・ 地球環境や生物多様性へ配慮した事業活動の内容
- ・ トウキ・センキュウ等の生薬製剤の利活用に向けた進捗状況



記者会見の様子